

## ＜ 長崎県の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録を見据えた国際行政施策の比較研究 ＞

研究年度 平成 30 年度

研究期間 平成 30 年度～平成 31 年度

研究代表者名 奥山 忠裕

共同研究者名 石田 聖

### I. はじめに

世界遺産登録の推進は、人類の歴史の結晶たる希少な文化財の保全に寄与するとともに、その文化財を中心とした地域の活力の向上、交流の活性化に寄与する重要な施策である。研究の目的は、世界遺産登録に関する推進過程での要点を SWOT 分析に基づきまとめることである。関連する既存の多くは、登録のインパクトにのみ関心が寄せられている。本研究では、長崎県とマカオとの国際比較を通じて、行政や市民活動の観点から、①登録推進の過程における課題の検証および②本県の潜伏キリシタン関連遺産の価値とその国際的な表現のあり方について検証を行う。これによって、文化遺産登録に関する一般性を高める研究成果を得るとともに、長崎県の総合計画に寄与していきたいと考えている。

### II. 研究内容

#### 1) 現地調査

世界遺産の推進に関する調査・研究を行った。調査対象地は、マカオである。マカオ市内では長崎県と同様に複数の遺産から構成される世界遺産が登録されている。現地調査では、これらの遺産について、活用と保全の状況を現地の文化財課からヒアリングを行った。まず、遺産の保全は各施設の管理者に任されており、住民協力という視点はあまりみられなかった。これは、遺産の多くが宗教系の施設であるためである。

2005 年の世界遺産登録を受け、マカオ政府によって、より包括的な文化遺産保護を促進するため、(1992 年に制定された) マカオ遺産法(the Heritage Legislation of Macau)の改正が 2006 年以降進められてきた。しかし、世界遺産登録後の歴史的建造物保全のニーズと急速な経済成長を望む開発業者との対立、政府の遺産管理方針に対する住民の反対など紆余曲折を経て、最終的に当該法律改正は 2013 年(2014 年施行)となった。2013 年に制定された改正遺産法では、行政の遺産管理に関して住民との協議が義務付けられているが、まだ歴史が浅く市民の参加や行政との協議の場は限定的なものとなっている。

近年では、マカオ文化局遺産管理部が提供するトレーニングを積んだ住民団体によって設立されたマカオヘリテージアンバサダー協会は、遺産管理の実践において地域の若者や一般市民に対する文化遺産の認知度を高めるため「ヘリテージ・アンバサダープログラム」を展開している。同協会は年間 150 名以上(2014 年時点)に研修プログラムを提供しており、実際に遺産地域でガイド役を務める「ヘリテージ・アンバサダー」になるには、一定のコースを取得し試験をパスする必要があるが、参加者は増加傾向にある。訓練を受けた参加者の多くは 16～29 歳の間の若者となっている。一見して、これはマカオの若い世代の間で遺産に関して認知度が一定程度ある

ことを示しているが、一方でマカオ市内の中学・高校等公立学校の教育カリキュラムの中でマカオの文化遺産に関する教育がほとんど実践されていないという背景がある。今回、限定的な現地調査の範囲内ではあるものの、マカオでは法政策的な側面、人材の育成・教育という側面から見ても住民の参加・協力という面から見た遺産管理、観光資源としての活用はいまだ限定的かつ発展途上であり、現在の遺産保全の実践において、住民や地域社会の参加は十分に展開されてきたとは言い難い。今後、より戦略的な行政と住民の協力関係が求められているところである。

## 2) データ分析

マカオ統計局にある観光統計データを用いて世界遺産と他の観光資源との補完関係についてまとめた。データは、Macao Tourist Satisfaction Index (IFT Tourism Research Centre)から引用している。データ項目は、All、Casino、Events、Heritage、Hotels、Border crossing、Non-heritage attractions、Restaurants、Retail shops、Tour guides&operators、Transportation であり、それぞれについて満足度が調査され、2009 年 (Q3) から 2016 年までの調査結果が記載されている。満足度の値 (100 点満点) は、以下のとおりである。

表 1 Macao Tourist Satisfaction Index

	all	casino	Events	Heritage	Hotels	Border crossing
2009	69.8	67.1	72.7	74.4	66.7	69.6
2010	72.1	73.1	75.5	76	68.6	69.6
2011	68.1	67.1	72.9	71.2	69.4	64.3
2012	69.8	69.8	73.7	69	71	66.9
2013	70.3	71.5	76.3	68.6	71	68.9
2014	69.3	70.2	76.3	67.9	71.1	66.5
2015	69.2	69.1	76.8	67.1	69.6	69.6
2016	71	73.1	76.9	68.9	71.7	69.7
	Non-heritage attractions	Restaurants	Retail shops	Tour guides&operators	Transportation	
2009	68.7	64.9	74.8	71.3	67.6	
2010	75.5	68.4	70.7	71.2	72.1	
2011	67.9	66.5	66.5	66.2	68.6	
2012	70	68.1	69.7	67.2	72.3	
2013	69.9	67.7	70.1	66.5	72.2	
2014	69.5	66.6	70.7	65.9	68.5	
2015	68.6	67.3	68.7	67	68.7	
2016	72	66.9	70.2	68	72.7	

## Ⅲ. 研究成果

### 1) 現地調査

活用という観点では、観光の中心的なルートに近いにある施設の周囲は、多くの観光客でにぎわっているものの、ルート外の施設ではあまり訪問客がみられなかった。その理由のひとつは、それら施設への標識などの案内がなく、ガイドを通じた観光案内がない限り、個人客が行き難いためである。マカオ市では、この点、主要な観光ルート上は無料の wifi があるものの、ルート外

にはないため、観光客を逃している点が弱みと考えられる。結論として、主要ルート外の遺産への認知度が低い点が課題である。近年、観光客増加に伴いマカオ歴史地区周辺を中心に住民の参加、行政との協議の場も少しずつ増加傾向にあるが、市民への認知度の低さ、行政（マカオ文化局）の透明性の低さが課題となっていることがわかった。

## 2) データ分析

### ①世界遺産が観光地全体に与える影響

各データの相関関係を調査し、全体的な満足度（表 1 の All）に与える影響について、単純な重回帰分析を行った。従属変数は、Casino、Heritage、Hotels、Border crossing、Restrants、年度は 2010 年から 2016 年のデータを用いた。係数の値をみると、Casino が最も高く、次いで、Restrants、Heritage の順となった。マカオは世界有数のカジノ産業をもつこと、また、レストラン（食事）は、観光の目的自体にはなりえないことから、Heritage（歴史遺産）が観光地の魅力を高めることに寄与していることが示唆される。

表 2 回帰分析の結果

回帰統計	
重相関 R	0.999
重決定 R2	0.998
補正 R2	0.987
標準誤差	0.151
観測数	7.000

分散分析表

	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	5.000	10.251	2.050	89.345	0.080
残差	1.000	0.023	0.023		
合計	6.000	10.274			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	1.578	20.880	0.076	0.952	-263.734	266.890	-263.734	266.890
Casino	0.378	0.175	2.165	0.275	-1.842	2.599	-1.842	2.599
Heritage	0.129	0.111	1.156	0.454	-1.286	1.544	-1.286	1.544
Hotels	0.076	0.260	0.294	0.818	-3.221	3.374	-3.221	3.374
Border crossing	0.106	0.143	0.742	0.594	-1.709	1.921	-1.709	1.921
Restrants	0.299	0.122	2.458	0.246	-1.247	1.845	-1.247	1.845

### ②カジノ産業との分析

次に、マカオ政府が収集したカジノへの排除対象者数の推移と、世界遺産の満足度の相関関係を計測した。カジノへの排除対象者（Self-Exclusion）数のデータ（Quarterly data of the Casino Exclusion Applications）は 2013 年から 2016 年のものを対数変換して用い、Casino は関連性が高いことから、排除している。

表 3 排除者の推移

Years	Self-Exclusion
2013	27
2014	252
2015	262
2016	328
2017	326

表 4 相関係数

	All	Heritage	Hotels	Border crossing	Restrants
Self-Exclusion	-0.177	-0.318	-0.051	-0.037	-0.794

相関をみると、各変数の符号が負値となっていることから、カジノ以外の観光資源は、排除者数の減少に寄与している。最も大きいのは Restrants（食事）、次いで Heritage（遺産）となっており、ある観光資源の問題（ここではカジノ中毒の問題）が、他の観光資源の正の影響によって、改善される可能性が示唆された。

なお、この結果は、少サンプルのもとでの結果であり、他の観光地では異なる可能性が高い。今後の調査データの充実が必要と考えられる。

#### IV. おわりに

今回の調査を通じて、①観光地の周遊行動を増やすためには、wifi などの拡充が必要であること、②特に、歴史遺産については、住民との協力がなければ、周遊行動は拡大していきにくいことが示唆された。また、データ分析からは、①歴史遺産は、観光地の魅力向上に寄与する資源であるとともに、②カジノで発生する中毒問題（大きくは観光資源の存在から発生する問題）を緩和（改善）する可能性が示唆された。

全体的なまとめとして、歴史遺産の活用・保全を地域全体に波及させるには、住民協力の広がりが必要であること、また、それによって、他の観光問題も改善・緩和される副次効果を持つことが示唆されたと考えられる。

課題として、世界遺産という共通点はあるものの、時間の関係から長崎市との精密な比較に至らなかったこと、また、カジノ産業の影響を考慮した世界遺産など周辺観光資源の活用については、さらなる調査が必要であり、今後の課題としたい。